

## 令和5年度第1回神奈川県鳥獣総合対策協議会 サル対策専門部会

開催日時 令和5年5月16日(火)10時00分から12時00分まで  
開催場所 ZoomによるWEB会議  
出席者 ◎小池 伸介、広谷 浩子、三谷 奈保、安富 舞、小島 望、板倉 孝明(臼井委員の代理)、木村 昌史、小倉 友貴(岡部委員の代理)、有馬 真一、鈴木 啓友(高杉委員の代理)、○中原 正貴、天野 勝彦、青木 悟子(朝倉委員の代理)  
(◎部会長、○副部会長)  
委員 15人中13人出席(過半数)により会議は成立

会議の経過は次のとおりです。

### 1 開会

自然環境保全課 野生生物グループ 松宮グループリーダー

### 2 あいさつ

自然環境保全課 羽太課長

皆様おはようございます。お忙しい中、朝早くからの会議にご参加いただきありがとうございます。今回の会議は対面開催を検討いたしましたが、出席される皆様の日程調整の結果、前回に引き続きリモートでの会議となりました。議論する上でご不便をおかけしますが、ご協力よろしく申し上げます。

これまでサル対策専門部会で議論いただき、積み重ねてきた第5次神奈川県ニホンザル管理計画は、令和5年3月に策定にこぎつけました。さまざまなご指導お力添えに深く感謝申し上げます。

今年度からいよいよこの管理計画を実行して行く段階となります。管理計画実施を実施するに当たっては、毎年度、事業実施計画を策定することとしております。この実施計画の策定に向けて、来たる5月26日には鳥獣総合対策協議会で実施計画の案をお諮りしたいと考えております。

実施計画ですが、第5次神奈川県ニホンサル管理計画で打ち出した方向性を踏まえて、各地域のサルの群れの状況、人間の側の社会の実情に即した実施計画作りが必要となっておりまいます。特に、地域の取り組みを続けてきた中で、いくつか管理の方向性を変更する必要が生じている群れがあります。今日は、この辺りに重点を置いてご説明し、ご議論いただきたいと思っております。

なお、今回の会議に先立ちまして、つい先日5月12日にはニホンザル管理検討委員会を開きました。検討委員会で様々なご意見をいただき、これについては今回配布した実施計画

の案には反映できておりませんが、別途資料にまとめており、そこで出された意見とこれらへの対応方向の案についてもご説明したいと考えております。

限られた時間ですけれども、忌憚のないご意見、ご議論をいただきますよう、よろしく願いいたします。

### 3 議題（令和5年度ニホンザル管理事業実施計画（案）について）

（資料1～5に沿って事務局（資料4については県央地域県政総合センター）より説明。

（質疑）

- 委員1：事務局にお願いがあるのですが、資料を職場に事前に送っていただくことは可能ですか。
- 事務局：必要があるようでしたら、お送りします。
- 委員1：では次回からお願いします。ペーパーレスで行うのもいいが、やはり見にくいので、以前の様に送付をお願いします。
- 委員1：特に今回の資料3の指摘事項は非常に大事なことだと思いますが、説明が走り去っていくような感じがあり、聞いていてなるほどというふうに納得できる感じを覚えなかったのですけれども、もう少し丁寧な根拠等改善できないでしょうか。当日質問した人は私も含め、ええっと思ってしまうことがいくつもあったので、どう考えていらっしゃるのか、もう一度見解を聞かせていただいてもいいですか。
- 事務局：駆け足になってしまい申し訳ありませんでした。いただいた意見に関しては、今回口頭で答えを返した部分が多くなっていますので、別途回答という形で、文書でお答えするような形にしたいと思います。
- 事務局：今回、計画策定の関係でスケジュールがだいぶ制約があることと、ニホンザル管理検討委員会とサル対策専門部会の日程が非常に詰まってしまい、情報整理の粗さが出てしまったかと思えます。もやっとしてしまっている部分については、ぜひ厳しく問い正していただけて応える形で、やり取りをしっかりと議事録に残して行く形で整理を付けていきたいと思えます。大変申し訳ございませんが、よろしくお願いします。
- 委員1：では、今回のこの指摘事項に対して文章化したものを我々で再度共有できるようにお願いできますでしょうか？
- 事務局：はい、別途共有させていただきます。
- 委員1：すみません、よろしくお願いします。もう一点だけ、今更と言われるかもしれませんが、「適正規模」という言葉が資料に出てきましたが、これまでも計画に使われてきた言葉ですか。
- 事務局：資料1の下の方を見ていただくと一番わかりやすいですが、元々第4次計画も同じ構成で、群れ管理の中での基本の考え方として「適正な生息域および適正な規模で管理をする」ことが大前提としてあります。

その方法論としての個体数調整の分類として「適正規模とするための群れの縮小・維持」「適正配置とするための群れの縮小、除去」という形で、前回の管理計画から記載があります。

- 委員1：ありがとうございます。「適正な規模」というのが、適正規模というふうに多分変わっていったのだと思うのですが、昔からずっと生態学をやっていて、適正規模という言葉はあまり生態学用語で使われていないと思います。あまり言葉がしっくりこないです。

今更変えろとは言わないのですけれども、一番初めに「適正規模」と使うところに、注釈みたいなものをつけてはどうかと思います。私は生態学でそういう言葉を聞いたことがなかったので、しっくりこないのですが、例えば、本当に適正かどうかはわからないではないですか。仮に適正と考えられるものを適正規模とするという使い方をしていてと思いますが、あまり使い慣れない耳慣れない言葉なので、注釈みたいなものを一番初めに付けてもらえないかと思ひまして。そうでないと、適正規模と言って進めていて、後から考えたら全然適当ではなかったではないかというのはよく起こり得る、多分起こっている話だと思うので、仮にでも適正規模と言うならやはり何かが必要だと思います。検討をお願いしたいです。

- 事務局：適正規模という語に関してはこちらもずっと使っていて、慣れてしまっていたような部分でもあるので、見た方が分かりやすいよう、注釈できちんと解説するようにさせていただきますと思います。

- 委員2：はい、ありがとうございます。委員1のご指摘は非常に大事で、私も今回の事務局の説明、例えば検討委員会の指摘事項への返答が非常に曖昧で、十分に納得ができる内容ではなかったです。事務局が「こう思っている」や「考えている」ではなく、根拠を示してほしいです。特定計画の中で動いているのでやはり科学的根拠をもとに議論を進めて欲しいと思います。前回の検討委員会でも十分な議論をする時間がなく、非常に無駄な時間を過ごしているように感じます。

- 事務局：回答に関してはしっかり考えた上で、また別途させていただきますと思います。

- 委員2：根拠について言えば、例えばこの資料3で「K1群及びK4群を除去すればその追い上げに掛かっていたリソースを川井野群の侵入防止に割くことができる」という箇所についてです。確かに、リソースは割くことができるかもしれないが、川井野群が生息する所はもっと急峻なわけですよね。今でさえ急峻で作業ができないという声がある中で、どのように対処することができるのか、という疑問があります。それに対して、具体的な対処法の説明があれば納得できるのですが、何が根拠なのですか？

- 事務局：地元の方では川井野群の追い上げが可能だという話で理解されているそうなので、その理由に関して県央センターから伺えれば。

- 事務局（県央地域県政総合センター）：K群がいるところが急峻というのは確かにその通りで、急峻故に川井野群が入ってきていないというのが現状の状況です。越えて来ること

自体があまりないと思うのですけれども、越えてきた際には少なくともK4群に対して置かれている状況よりは、難易度が低いと相模原市から伺っています。入ってくる事ができたということは、その方向に向かって、追い上げることで追い返すことができるのではないかという理解です。

○委員2：ありがとうございます。ただ、急峻だから群れが入ってこないのか、K4群がいるから他の群れが入ってこないのかという点も、今の説明では分からないですし、根拠がない中で議論が進み、しっくりこない感じがするというのが感覚です。個人的な意見ですがK4群を除去した後に新たに川井野群が入ってくる可能性はあるので、その時にまた安直に川井野群を全部捕るということにならないように。県と相模原市で協働していただきたいです。

○事務局：この地区というのは、県内でも有数の実行力を持った地域ぐるみの体制があり、追い払いだけではなく誘引物の除去や防護柵の設置も含めてやってきた所です。ただ、その実力を持ってしてもK4群を山へ追い上げることができないという状況です。

この辺の説明は単年度の追い上げのことに終始しており、今後事実を積み上げてもう少し丁寧に説明するという事は、先ほど事務局説明にあった通りですが、いずれにしてもK4群に対する取組としては、やはり地元が限界にきている状況です。なので、里に定着してしまったK4群を除去した上で、そのマンパワーを川井野群に集中させて里に定着しないようにしたい。川井野群の里への定着をどうするか、ということについては、今県央センターから説明があったように、まだ山から降りてきていない群れを山にとどめるための追い上げというのは現実的ではないので、里に降りて来たものを追い上げることになるかと思えます。

一方、そもそも集落をサルにとって魅力のない状態にするというのが対策の基本なので、K4群は完全に定着した状態ですが、まだ里に定着しない川井野群については、今の対策に加えて集落環境調査をやってサルにとって魅力的なものを排除して行くことをやりたいと考えています。野生動物対策は次に何が起きるかという予測ができませんが、いたずらに「次の群れが定着してしまったのでまた除去」という運びにはならないよう、一つの大事なケーススタディとして、県と市と地元とで協力して一体になって取り組んでいきたいと考えています。

○委員2：非常に丁寧な説明ありがとうございます。K4群の対応が大変だということはよく理解できました。スレ個体とか問題個体も多いと思うので、それを一回除去するというのも理解できましたが、ただし、当然次の群れが近づいてくる可能性はあると思うので、長い視点で対策にあたってもらえればと思います。

今回、地域個体群の安定的な維持という部分で、関東広域にいる個体群の南端に位置するという事は理解しました。ただ、これは神奈川県が言っているだけで、東京都と山梨県との間で合意が取れた内容ではないですよね。もしこの話を展開するのであれば、現在行っている、都県間の意見交換だけでなく、正式な都県間の枠組み、たとえば広域保護管

理指針を設けるといった、この地域個体群をどのように管理していくかを、都県間で検討していくような段階に来ているのではないかなと思います。これは西湘地域個体群も一緒です。ご検討ください。

- 事務局：はい、おっしゃるとおりだと思います。ありがとうございます。
- 委員3：今のお話を聞いてK4群が難しいというのは理解しました。川井野とか鐘ヶ嶽群とか、だんだんこれから来るとか今また執着し始めている群れがあるのだろうと思うのですけれども、追い上げとか被害対策という見方の他に、成功体験を積ませないということ、言い方の問題なのかもしれないのですが、被害というのはサルから見ると成功体験になっているということがあるので、これから鐘ヶ嶽群とかは追い上げをやりましょうというのもあると思うのですが、成功体験を積ませないようにしましょうという伝え方はどうなのかなと思います、提案します。
- 事務局：おっしゃる通り、サルにとっては成功体験で美味しい餌があったと。それでももう定着してしまうという流れだと思うので、そういったことを避けるよう、生息環境整備とか、被害防除対策、電気柵等も含めて今の段階だと実施計画の文で具体的になっていない部分もあるので、しっかり具体的になるよう単年度では難しいかもしれませんが改善していきたいと考えております。
- 事務局：補足すると、委員3のおっしゃる通りで、これまで地域ぐるみの対策を指導してきた西日本の先生からも、「農業者から見たら被害だが動物から見たら餌付けだ」という伝え方を繰り返し教わってきました。どこに視点を置くかということはずごく大事です。鳥獣対策というのは人間対策でもあり、人に伝わらなければ意味がないので、今のご意見や事務局の発言も踏まえて、強く意識してやっていきたいと思います。
- 委員2：他にご意見等ありますか？
- 事務局：資料3の中の最後の「オ」のところ、今の内容と関連する部分なので、説明させていただきたいと思います。こちら検討会後に「実施計画の別表2 川井野群について、「被害が発生した場合は、個体数調整を実施する」とあるが、個体数調整だけで被害が減少する訳はないので、個体数調整だけで対策をするような書き方はやめて頂きたい。」という意見を頂いたのですが、別表2というのは群れ管理の内容をまとめたもので被害防除対策は別に記載をしております。また、別表2では「追い上げ」「群れ管理のための個体数調整」の2項を記載し、主として追い上げを実施するが、状況に応じ個体数調整についても協議するという趣旨であるため、表現は修正する形にさせていただきたいと考えています。
- 事務局：それに加えて、里をサルにとって魅力的なものにしない、というのはこれから定着してしまいそうな川井野群とか鐘ヶ嶽群についてきちんと表現しておく必要があるだろうと思うので、それも含めて反映させましょう。
- 事務局：はい、どうしてもこれまで群れ管理の方が強い計画になっていたので被害防除対策や生息環境整備をより具体的に書けるようにして行きたいと思います。よろしくお願

します。

○委員 2：はい、ありがとうございます。大事な点ですね。

他の方、K 1 群 K 4 群以外もいろいろありますので、何かコメントありましたらお願いします。

○委員 4：まず K 1 群 K 4 群の件に関して、なるべくかいつまんで意見を申し上げたいと思います。以前の 2 次、3 次計画の時には市町から検討要望が出て、地域協議会で合意を取り、サル部会に要望が出て、事前に検討委員会で専門委員からの意見を聴取して、県が計画の要件に照らし合わせて該当すれば実施計画に反映、部会で合意、そして、判断がもしつかない場合は部会で検討し、部会の委員の皆様の賛成を取って了承して、得られない場合は計画には反映しないということだったと思います。4 次計画からこの流れが曖昧になっていて、判断の流れが分かりません。

あと地元としては除去したいという要望が出ていますと説明の中に出てくるのですが、市町村から積極的な対策の要望が出るのは当然だと思います。ですが、県の役割としては計画に照らし合わせて要件を満たすか判断して、満たさないとなった場合は、再検討として市町村に必要な支援を行うのだと思いますが、県としては今までのご説明からすると、K 4 群は要件をすべて満たしているの、この状況で計画変更し、こういった群れに対する除去の判断の前例を作るということになりますよね。そういったことでよろしいですか。あと実際の要件のご説明がいろいろありましたが、そもそも 4 次計画期間中までに、K 2 群 K 3 群を除去して重複を解消し、K 1 群 K 4 群を、被害を減らしながら効果的戦略的な追い払いですとか被害対策を進める初年度、二年目、三年目というのが、この 5 次計画の期間だと思っていました。とりあえず、一年やってみたらまいちだったので周辺に群れもいるので捕ります、という流れになってしまうと K 2 群 K 3 群を捕った理由付けの中での整理がおかしくなってくると思います。K 4 群の追い上げ事業も一覽で資料いただきましたが、実際、専門業者以外の追い払いの実施状況も不明ですし、傾斜自体が追い払いの問題になるなら、もうどこでも追い払い自体は不可能だと思います。川井野群が急峻だから来ないという話がありましたが、サルに急峻にだからこっちに来ませんというのは崖でも登る動物ですので、その辺はあまり関係ありませんし、川井野群は八王子市では普通に農地に依存しています。既にそういう群れです。八王子市でもホカクンを導入してサイズダウンを行う予定があります。そういった状況であるということをご理解いただきたいです。先ほどの判断の流れとか手順の話になるのですが、検討委員会への資料送付が 10 日、検討委員会が 12 日、専門部会が 16 日で、これから維持管理をするための効果的な対策を進めようと考えられていた K 4 群に対して、やはり除去させてくださいという議論をしてくださと言われても、ちょっと今、自分の立場では充分除去について議論できたとは答えられない状況かと思えます。すみません、まとまり切らないのですが、意見としては以上です。

○事務局：色々お話しいただきまして、確かにまずスケジュールに関しては大変短い中で、

資料送付から検討までして頂いて、大変申し訳ありませんでした。委員4もおっしゃっていた「検討委員会で検討して専門部会で了承をとったうえで実施計画として組み立てる」と言う流れに関しては、現在も同じだと考えておまして、基本、今回了承された範囲、固まった範囲で実施計画を作っていくと思っています。

委員4がおっしゃった通り、今までのK2群とK3群の状況から、「専門業者による追上げの実績がまだ数年しかないところで判断するのは早計だ」という結論になれば、事務局としては当然、この専門部会での了承が得られなかったということで、基本的に前年までの管理方針である「適正な規模のための群れの縮小・維持」という形に修正するものと考えております。

今ご意見をいただいた内容に関して、地元としてのご説明があれば伺えればと思います。今回出席いただいている方で当事者として、県央センターでもいいですし、あるいは委員5等の関係団体さんからご意見をいただければ。

- 事務局（県央地域県政総合センター）：まず県央センターからコメントさせていただいて、その後に委員5から補足などいただければと思います。

K4群は相模原市のご意見を了承した上で、県央センターの案として上げさせていただいているという立場です。K2群K3群の除去後、重複が解消したのではというお話ですが、これは先ほど申し上げた通り、県央センターとしては、広域的な視点でやはりK4群も挟まれて追上げにくい場所にあるという判断で「重複している」という整理をいたしました。「前例を作ってしまう」というようなお話や、「坂が急峻であるとか、あるいは群れに挟まれているというのは、どこの群れでもそうだ」というようなお話をいただいているのですけれども、抽象的な要素ではなくてそれ以外の個別具体的な要素、例えばその急峻さと群れの配置というのが、どういうふうに組み合わせられているかですとか、あるいは、「単年の」というお話がありましたけれども、ここの群れについては長年対策に取り組んできた地域ですので、そういった長年取り組んできた経緯ですとか、あとは群れの移動の傾向ですとか、地域の高齢化ですとか、そういった具体的な地域の性質を踏まえて除去というのを判断していただきたいというのが、こちらからの意見です。

- 委員5：この津久井地域については、分かっている限りで平成14年度から緊急雇用の事業等を使いまして、追い払い等をやっております。それからシルバー人材ですとか、そういったところも活用しながら色々な群れの追い払いをやっていますが、現状の通りあまり効果がでていないという状況です。ですので、追上げの実績が昨年度の実績のみというお話がありますけれども、実際のところは合併以前の旧町の時代から色々地域の方、それから当時の行政も取り組んでいるということをご理解いただきたいと思います。

群れが存在する限り追い払い追上げをしていかなければいけないということになりますけれども、そうしますと地域の高齢化もありますし、市としてもサル対策には相当な経費をかけてやっております。今後も続くとなると、そのあたり人とか財政的な支援も併

せて考えていただければと言うふうに考えております。

あと、現在、市の方ですけれども隣接している八王子市、上野原市とも定期的に会議を持ちまして市レベルで今後どういうふうに取り組みをしていこうかという検討もしておりますので、そのあたりもご理解いただきたいと思います。

○委員2：ありがとうございます。事務局は何かありますか？

○事務局：ありがとうございます。地元からの実際のお話もいただいたところですが、今説明のあった長年追い上げをしているという話に関しては、委員4からはK2群やK3群の除去をした後のアクションとしての追い上げに関しては、まだ実績があまり上がっていないという趣旨でお話があったと思っているのですが、そういうことでよろしいですか。

○委員4：私自身が多分一番古く関わっているかと思いますが、平成16年、17年にK4群が和田峠で確認された際私も目視しています。K4群という群れが確認された当時ですね。そして、平成14年からの藤野の竹の子の里でのK群対策ということにも関わらせていただき、長年どういう努力をされているかというのは、専門員も経験しておりますので、充分承知しています。そういう中で地元の努力が限界になってくるということも承知しています。ですけれども、そういうことに関しては、西湘地域個体群でも、追い払いの仕方を見直したらどうですか？会計年度さんですとかシルバーさんによる追い払いではない追い払いはどうですか？というお話をずっと言い続けました。が、結局、追い払い体制は変わらず、その結果、S群は除去しまして、地域個体群が存続の危機ということになってしまっています。

南秋川個体群は、すぐに地域個体群の存続の危機ということにはならないと思うのですが、同じような議論をずっと20年以上繰り返してきているので、ここでやはりもう少し、追い払いの対策の仕方ですとか、ちゃんと攻めていく、神奈川県はGPS発信機を装着して国内で多分最も精緻なモニタリングを行っていらっしゃると思いますので、そういったものを効果的に活用した追い払いとか被害対策ですね。例えば、GPSのポイントデータが全部出ているから、泊まり場での追い払い、これもまだ実施されていないと思います。それから被害農地の特定を行って、もう少し戦略的に柵を設置する。それから、栗の誘引除去場所についてもポイントデータ等から判断するとか、そういったモニタリングのポイントデータ等を市町村の追い払いに具体的、効果的に活用している事例も見えてきません。このままで行くと川井野群が恐らく旧藤野町ではなくて旧相模湖町の方に出てくると思います。旧相模湖町はK2群K3群が居なくなった状況もあるので、下岩のような取り組みはできていないですね。

そういった状況ですので、例えばK4群については除去の可能性も必要だと思いますが、もう少し、モニタリング情報などを活用した戦略的な、攻めの対策をしっかりと実証して実施して、事例を集めてもいいのではないかなと思いました。

○事務局：確かにもう少しやれることはあると思います。ただ、現状やっているのは人間な



ので、気持ちですとか心の傾き具合というところ、感情もろもろ踏まえると、一旦どこかで少し整理してやらないと、できることも多分できなくなってしまうというのが、今の地域の実情ではないかと思います。確かに泊場つぶしができていない部分ありますが、少なくとも30頭まで減らしても、今なお完全に佐野川地区や沢井地区にロックオンしているK4群は捕らせていただきたい。K1群については、もう少し大きな群れなので、規模を半分ぐらいにするという元々の目標に至っていない現状ですから、まだもう少し減らしながらやる余地があるとしても、K4群は除去して、地域として一旦取組の気持ちと体制を整えさせていただくということは、必要ではないかと私達は思っています。

○委員4：そういうことは承知しているのですが、先ほど委員2がおっしゃったように、そもそも存在しているだけで対策に限界が来ていますということであれば、いろいろ捕獲する理由をこじつける必要もなく、地域個体群の維持はしないということが根拠で、隣接する群れが他にもいるのでK4群は除去します、ということのを先に前面に押す形のほうが、いろいろやり尽くしましたという状況を頑張っただけで理屈づけるよりは、うまく言えないのですけど、悪い前例とならないのではないかと思います。神奈川県は南秋川個体群を維持管理しません、ならそう言っていただいたほうがよっぽどいいかなと思いました。

○事務局：おっしゃる通りだと思います。いつも群れを除去する・除去しないの際、「ここまでやったのだから全頭捕らせてほしい」とか「全頭捕るにはまだこれとこれをやらなきゃ駄目だ」ということが出てきて、本来の野生動物管理からはズレてしまいがちです。サルというものは丁寧に管理しなくてはいけない側面と、被害が甚大で対策が非常に難しいという側面が鋭くぶつかり合うがゆえに、そう見えてしまう、あるいは議論している側がいつの間にかそのステージに取り込まれてしまうというのがサル対策の特性かなと思います。

先ほど地域個体群として、もっと広域の視点で周辺とも連携して考えていくべきということも委員2からいただきました。まだ国レベルの地域個体群の再評価というのは検討途上だと思いますけれども、南秋川地域個体群についてはすでにその議論を待たずとも、今の地域個体群の概念でも、先ほど県央センターが地図でお示したように、県境を跨いだ神奈川県の外にも同じカテゴリーの大きい群れがひしめいている状態なので、その南関東地域個体群の状況を直視した上で、隣接する都県との頭のすり合わせや作戦立てが必要になっていると思います。

なので、群れを一つ除去ということに留まらずに、そういう広域での管理方針の共有ですとか、そこにもう自ずと踏み込まざるを得ない状況だと思います。その観点で今一度、南秋川地域個体群をきちんと捉え直し、K4群の除去については、委員4からご指摘あったようなことも念頭に、これまでやってきたことをきちんと整理した上で、方針として言い訳ではない形で表現できるよう検討したいと思います。自分達としてどう認識し、どの方角から説明するかということは、今一度整理したいと思います。

○委員1：委員2と委員4、私が先ほど指摘の話で触れたかったこと等を殆ど言って頂いて、

ありがとうございました。もう一度文章化して共有する時に、お2人のご意見とも合わせて私の意見も言おうと思ったのですけれども、もうかなり言っていたので、ありがとうございます。

そして、高齢化とか、現場感覚の、というのをきちんと説明できないならば、それってやはり科学的とは言えないですよ。おっしゃっていることはわかります。高齢化というのは、もうどこもこういう場所はそうですし、あと例えば個体群とその斜面との絡みがどうというのも、やはり長年現場に入っていると勘とか、そういうものでしか説明できない微妙なところもあるのもわかるのですが、それならば、例えば画面を用意して説明してもらおうという方法もあるでしょうし。そして何よりも委員4がおっしゃったようにやれることやっていないのに、最終的には課長さんがおっしゃったように感情とか、捕りたいというのは、要はもう科学的管理を放棄したのと同じ言葉なのです。そして、もちろんおっしゃった内容はつくづく承知しているのですけれども、私がこの部会をやっている最近ずっと思っていたのですけれども、撃ちたい、捕りたいというそれをなんとか手綱を握って、歯止めをかけるのが実質的な目的に、もうこの専門部会はなっているのかなって感じがしてきたんです。何を言いたいかという、このままやってもこういう撃ちたい、捕りたいというのを、これをやってから、あれをやってからというのはもう進展がないのではないかと感じてしまいます。これは提案なのですけれども、集中的にどこかの場所をモデルケースにして、要は計画をきちんと立てて、それこそ先ほど委員4がおっしゃったような方法を尽くして何かモデルケースを作って成功したのだというのをどこか一箇所でもつくらない限り、この同じ堂々巡りをずっと何十年もこの先やっていくのですか、という話になってしまうと思うんですよ。だから今回本音みたいなものが課長さんからも出たように、方向を変えなきゃいけない時期になっているのではないかと感じています。委員2とか委員4にもその考えについて、お聞かせ願えたらどうかと思います。

○委員2：はい、本当に貴重な意見ありがとうございます。私の意見を言いますと、先ほど羽太課長が情報を整理して、とおっしゃいました。私がこの委員会に関わり始めて4年目なのですが、就任当時に今までの神奈川県での取り組みを教えて欲しいと伝えたところ、「群れごとに情報を取りまとめ中で、出来次第情報を共有します」、と言われてきました。しかし、4年間、私はそれを見たことがないです。もし、そういった情報が整備されていれば、対策の成功事例や失敗事例を市町村間で情報共有もできます。現状では、市町村は圧倒的に情報不足で、何をしたらいいのかわからず困っていると思うんですよ。大変な作業かもしれませんが、神奈川県の各市町村の各群れに対して今までやってきた対策とその効果を、出来れば特定計画が出来る前の時代も含めて、もっと体系的に整理していただけないでしょうか。恐らくこれは羽太課長のときにやらないと、もう今後ずっとやらないと思うんですよ。以上が私からの意見です。

○委員4：すみません、その一端を担ってしまっているんで、羽太課長がいる時にまとめたいと思います。今、委員1がおっしゃったような件に関しては、もしK4群がこのまま除

去という形になったとしても、他の対策も取り組みながら進められると思うので、K4群の地域に関してモニタリングの結果とかも使いながら、できる限りのことをやってみる、それに対して支援センター等の協力も得られればと思いますね。そして、そういった取り組みを市の方でも進めていただければいいのではないかなと思います。そして、もし除去となった場合でも除去を進めながら、今後出てくる群れに対して備える、いろんなケーススタディが重ねられると思います。

○委員2：委員1、私と委員4の意見はこれで大丈夫ですか？

○委員1：大丈夫です、はい。

○委員2：すみません。えっと時間だいぶ経ってしまっているのですけれども、これに対してなにか事務局からありますか。

○事務局：はい、ありがとうございます。群れ単位でどういうことをやってきて、その結果、この群れはこうなっているということを、できるだけ整理した情報で積み上げていくというのが、今のサル計画の中で方針としてありますが、先生からそういう風に言われたということは、そこが充分できていないのだと思います。このサル計画は、実施計画レベルでは、サルの群れごとにカルテ、つまり処方箋を作ってそれでやっていくという考え方でできているはずですが、そのためにサル計画自体、かなり分厚くなってしまっているわけですが、結果的にそれがどうもそういうふうに結びついていないということはあるのだと思います。

すべての群れについて同じレベルで情報を取り揃えるということは、それはそれでそのための作業になってしまう恐れがあります。この実施計画を回していくメンバーも限られています。ただ、特定の群れを取り出し、その群れの来歴と現状をきちんと整理して「見える化」するということができればと思います。事務局目線では、やっているつもりだけど、そのように見えていないというのが実態だと思います。

今回K4群をこのように大胆に扱うにあたって、今、委員4が言われた通り、やりながらでもできることがあって、それはすべきことだと思います。材料がたくさん手元にあるはずなので、いろいろ教をいただきながら、それをもとに「見える化」する作業を、県政センターや市役所とも協力してやっていければと思います。

地元は決してサルを殺したい、捕りたい、撃ちたいと思っているわけではなく、地域の願いは、サルが畑にきて荒らさなくすることです。そして、そのためにいろいろやってきましたが、なかなかできていない。専門の見地からすると「やれることを少しもやっていない」というところと、地元からすると「やれることはやってきてこれ以上無理だ」という悲鳴が上がっている状態です。確かに野生動物の科学という面では、人の心や気持ちというのは入っていないかもしれませんが、サル対策は、動物と社会と両方を扱う取り組みです。そこを無視しては元も子もないわけで、そこをうまくやっていくことが、私達がやらなければいけないことなのだと思います。

ぜひ、今残されているK1群、K4群、隣の川井野群の情報整理については、ひとつ、

ここまでやればこれだけ見えるようになるというところまで、ご指導を仰ぎながらやりたいと思います。よろしくお願いします。

○委員 2：はい、ありがとうございます。ちょっと時間が押してしまっていて、あと、どうしてもここでというものがありませんでしたらお願いします。

○委員 4：丹沢湖群の話の一つだけ補足で、実施計画の反映を検討いただきたいと思うのですが、30 頭から 20 頭に変更すると言うのはよいと思います。シミュレーション用に捕獲結果をいただいたのですが、モニタリングの結果との齟齬があります。モニタリングでは丹沢湖群が 2 年間出産なしとなっていますが、捕獲結果ではアカンボウメスを 2 頭捕獲したという記録をいただきました。

今年度、個体数も既に 20 頭切っていて、その後、3 頭捕獲で恐らく 16 頭程度となっていますので、さらに今年度 1 頭捕獲というシミュレーションを出しましたが、これまでの事例にもあるように、小集団に分かれる恐れが非常にあります。ですので、今年度は、捕獲はちょっと一旦見直して様子を見るということでもいいのではないかなと思います。無理にアカンボウ 1 頭とか捕獲計画数を入れなくてもいいかと思います。

○事務局：ありがとうございます。私も今改めてですね。議事の説明と資料を見ながらこれは本当に見直す必要があるなと感じましたので、今おっしゃられたことも踏まえて市町とも調整して見直す方向で検討したいと思います。ありがとうございます。

○委員 2：はい、ありがとうございます。先ほど羽太課長のおっしゃったように、これまでの対策と成果を整理するのは大変だと思いますが、この専門部会に上がってくる群れの情報というのは、対策不能な群れの情報が主に上がってきます。そうすると、対策が成功した群れの情報は入手や、共有することは出来ません。そういった成功事例の情報もいただくと、もっと建設的な議論ができるかなと思います。羽太課長おっしゃったように、野生動物管理は科学ではないです。ただし、やはりいろいろな意見を持った人達が物事を決めるためには、誰もが納得できる根拠となる科学的な情報が欲しいです。

すみません。ちょっと時間が押しましたけれども、他に意見なければ本日この程度にしたいと思います。それでは本日は委員の皆様からの様々なご意見をいただきましたので、それを元に今後の管理の取組を進めていきたいと思っています。事務局にお返しします。

○事務局：本日は長い時間どうもありがとうございました。本日いただいたご意見を基に、必要な修正をした上で、5 月 26 日開催の鳥獣総合対策協議会で実施計画案について諮らせていただきたいと思います。それでは以上もちまして、本日のサル対策専門部会を終了させて閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。